あとがき

本書では、壊れやすいソフトウェアをどのように育てるべきか、その方法をインフラの側面から解説しました。また、ソフトウェア開発の手順が、実は昔からさほど変化していないことも説明しました。

ひとつ忘れないでほしいのは、どんなソフトウェア開発にもぴったりの開発プロセスは存在しないことです。どんな開発プロセスであれ、適用するときには必ずテーラリング (カスタマイズ) が必要です。本書でも、ビルドをリリースする頻度、ビルド番号の書式、ビルド曜日とリリース曜日、バグ報告票の書式と状態など、非常に多くのパラメータをご紹介しました。これまでに提唱されているさまざまな開発プロセスを学習したうえで、それぞれのいいとこ取りをし、皆さんの組織に合った開発プロセスを作り上げてください。

また、ビルドの健康管理にもさまざまな手法があります。ウィークリービルドとリグレッションテスト、デイリービルドとスモークテスト、継続的インテグレーションとオートメーションなどのアプローチを組み合わせて、ビルドの健康管理を怠らないでください。

ここまでお読みいただきまして、ありがとうございました。みなさんが、みなさんの組織にぴったりの開発プロセスを見つけられることを心よりお祈りしています。

Build your team, your trust, and your friendship. Then you’ll have built your software!

津田義史

# 謝辞

t.b.d.